

分野名：青少年教育

老若男女 地域一体で取り組む 地域おこし

～「地域存続」と「未来の担い手育成」の取組を通して～

朝倉市 蜷城地区コミュニティ【コミュニティセンター】 事務局長 羽野 勉

1. 事業名

- 蜷城地区コミュニティの10年後、20年後を見据えた地域おこし
- 来るべき人口減に対して地域活動の維持と活性化対応を図る取り組み

2. 事業の目的

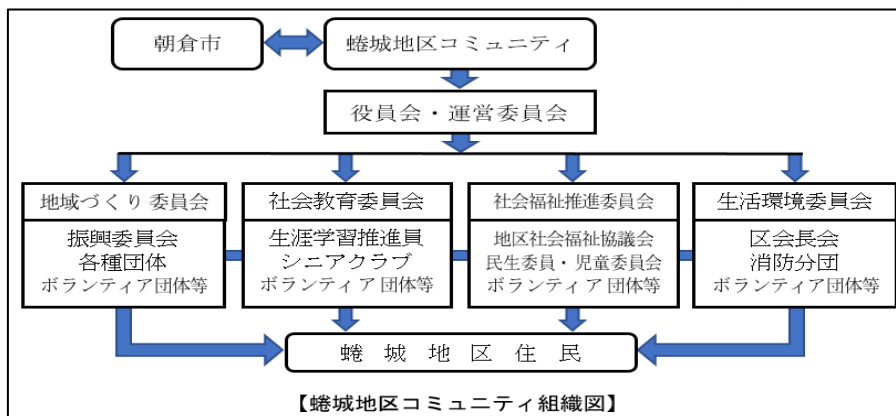
蜷城地区住民の生活支援体制整備及びコミュニティ活動の維持を図る。

3. 事業の主体

蜷城地区コミュニティ

4. 連携・協力機関・関係団体

蜷城地区コミュニティ構成団体（地区内のボランティア団体等含む）



5. 実施に至る経緯

蜷城地区コミュニティは、平成29年7月九州北部豪雨被害で、床上浸水250戸以上、床下浸水150戸以上の被害が発生。その後6年間で5回の浸水被害を受けて人口が激減している。そこで、蜷城地区を存続させるとともに、未来の地域の担い手の育成が必要だと考え事業に取り組んだ。

6. 事業の内容

(1) 他機関と連携したワークショップの実施

朝倉市介護サービス課、朝倉市社会福祉協議会、蜷城地区コミュニティ等が集い、蜷城地区の生活支援整備体制を構築するワークショップを開催した（写真1）。その中で、様々な問題や検討事項を出し合い、対応策や実行案を協議し、令和5年度中にできることから実施することとした。協議で出た課題は次のとおりである。



【写真1：ワークショップの様子】

＜ワークショップで出た問題点＞

- ① 超高齢社会と超少子社会の到来／人口減が激しい。
- ② 各種団体、組織の担い手不足（役員も構成員も含め）
- ③ 地区内公共交通機関の不足（バス1路線、1時間に1本程度と利便性が悪い）
- ④ 災害時における救助・救護・支援に対する不安（特に水害、浸水被害に対する不安）
- ⑤ 地域コミュニティの弱体化（高齢化と集落人口減のため）

③については、行政、事業者等の他機関に頼ることが大きいため今後の検討課題とした。

それ以外は、人口減少が大きな要因である。人口減少は仕方がないが、減少スピードの緩和はできるのではないかと考え、実行案を協議した。その結果、右の実行案が出た。

＜ワークショップで協議した実行案＞

- ア 地域住民の語らいの場づくり
- イ 青少年に対する地区コミュニティ活動づくり
- ウ 蜷城地区の「魅力」の再発見

(2) ワークショップからの実践

ア 地域住民の語らいの場づくり

○「蜷城カフェ」

小会議室等の空き部屋を終日開放し、住民の語らいの場を設けた。コミュニティセンターは場所と飲み物の提供のみを行い、準備や後片付け等は利用者が行うこととした。

カフェの実施により、コミュニティセンターへの来館者が増えた。また、これまでは、会議終了後すぐに帰宅する人が多かったが、カフェがあることで、そのままセンターに残る住民が増え、そこで様々な方が会話を楽むようになった（写真2）。



【写真2：「蜷城カフェ」の様子】

○「冬のマルシェ in 蜷城」（12月23日実施予定）

蜷城地区の賑わいと「老若男女」のつどいの場として、蜷城コミュニティセンターを会場にキッチンカー・飲食ブース・地元生産物品の販売、各種ワークショップ等を計画している。地域住民の活気を取り戻し、コミュニティ活動に興味をもってもらいたい。

イ 青少年に対する地区コミュニティ活動づくり

コミュニティの各種行事の中に「子ども専用」のプログラムを位置付けたり、子どもたちの活躍の場を増やしたりすることで、地域の親世代や祖父母世代の参加者も増えた。

・「歴史巡りウォーキング」（写真3）

子どもから大人まで全ての地域住民を対象に、校区内の史跡を歩き、地域に残る宝を再確認した。

・「夏祭り」

子どもを対象とした抽選会の実施及び光るうちわや花火等の無料配布。

・「文化祭」

作品展示、獅子舞、活動報告等の実施。綿あめやカレーなどの無料配布。射的コーナーの設置。



【写真3：「歴史巡りウォーキング」の様子】

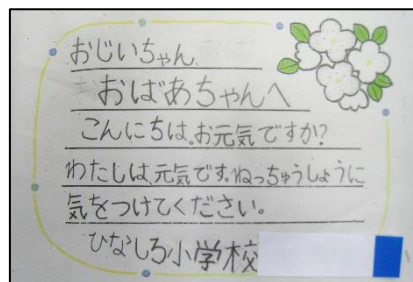
ウ 蜷城地区の「魅力」の再発見

蜷城小学校では、昭和 28 年 6 月西日本大水害で被害を受けたことを契機に JRC（青少年赤十字）に加盟。以来 70 年間、高い志（「人道・博愛」「自他一如」）と、郷土への誇りをもち、社会に貢献できるたくましい子の育成のための教育活動を継続している。

70 年間続いている蜷城小 JRC 活動の「気づき・考え・実行する」精神は、地域に住む親世代、祖父母世代にまで根付いている。ワークショップの中では、蜷城住民の根底にあるこの意識こそが蜷城地区の大きな魅力ではないかと再発見し、蜷城小学校の子どもたちとともに活動に取り組んだ。

○蜷城小学校の JRC 精神を取り入れたコミュニティ活動

- ・年間 2 3 回、千歳弁当（配食活動）に蜷城小学校の児童が書いたメッセージを毎回添えて、地域の高齢者に配る（写真 4）。
- ・敬老会の 85 歳以上の高齢者や独居老人へ向けて、小学生が書いた手紙や年賀状を渡す。
- ・蜷城小学校 3 年生と一緒に環境美化活動として小学校前の花壇に花を植える。



【写真 4：弁当に添えるメッセージ】

7. 事業の成果と課題（○…成果、●…課題）

○地域住民の語らいの場「蜷城カフェ」を開設したり、子どもたちの活躍の場を設定したりしたことにより、地区コミュニティ活動への参加者が増え、多世代にわたって地域親睦を図るきっかけができた。

○コミュニティセンターの事業や小学校の授業で、多くの地域の方が子どもたちと関わっている。これは、子どもたちが蜷城地区住民の根底にある JRC 精神を受け継いだり、地域への愛着を深めたりする上で役立っている。

●地域住民が参加するだけでなく、魅力を再発見したり自覚したりできるような活動を考えていく必要がある。

8. おわりに

平成 29 年九州北部豪雨被害後、JRC の精神で自分たちの地区は自分たちで守ろうと、災害ゴミ撤去作業などのボランティア活動に取り組んだ（写真 5）。



【写真 5：災害ゴミ撤去作業の様子】

目に見える形はなくとも精神的な魅力を発信しながら、地域おこしは思いやりの心で、無理をせず、自ら進んで、「私で良ければ」の気持ちを大切にしていきたいと考えている。

問合せ先

〒838-0037 福岡県朝倉市林田 2 4 2

朝倉市 蜷城地区コミュニティセンター

TEL 0946-22-3004 FAX 0946-22-3004